

令和4年度 実務経験のある教員による授業科目 授業計画表

歯科衛生学科

科目名			分野	教育内容	
解剖学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義、実習	○
授業の目的	基本的正常構造に関する知識を理解する。 歯科衛生士として必要な人体を構成する細胞の基本的構造とその働き、人体の発生の基本的事項を習得する。				
到達目標	歯科衛生士として必要な、人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本を理解する。				
教科書	歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業項目
授業計画	1	解剖学概論	解剖学の種類、解剖学用語
	2	細胞の基本構造	基本的構造と機能
	3	組織の分類	身体を構成する組織の種類とその機能
	4	個体発生	染色体、胚葉の形成、胎児の成長と発達について説明する
	5・6	骨 実習	体を構成する骨 骨格系
	7	筋 実習	筋の基本構造と全身の筋について説明する
	8	脈管	脈管系の基本的な構造と機能
	9	消化器系	消化器の基本構造と機能
	10	呼吸器系	呼吸器系の構造と機能
	11~13	神経系	中枢神経 末梢神経 自律神経 三叉神経
	14	舌咽神経、顔面神経、舌下神経 実習	支配領域の働きについて
	15	まとめ	今までの内容を整理する

科目名			分野	教育内容	
生理学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	○
授業の目的	ヒトの生命現象を機能的側面から考察し、生体のホメオスタシス（恒常性）維持にかかる働きをミクロからマクロに至る幅広い視野で学ぶ。またそれらの機能が体内・体外の環境変化に応じて常に最適解を導くよう動的に作用できる仕組みを知る。生体としてのヒトを対象とする医療は、局所的な知識のみで対応できるものではない。根拠に基づく医療を提供するため、生理学の講義では全身のダイナミクスを総合的かつ科学的に理解し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体のホメオスタシス維持について説明できる。 2. 生体の運動機能・感覚機能・自律神経機能について説明できる。 3. 内分泌系の作用機序と生体制御機構について説明できる。 4. 体液の分類およびその産生と機能について説明できる。 5. 呼吸器・循環器・消化器・生殖器の機能と制御機構について説明できる。 				
教科書	「歯科衛生士テキスト 生理学」 覚道幸男・吉田 洋他著 学建書院				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
	1	生理学の意義・細胞	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学を学ぶ意義と生命現象の特徴について概説する。 2. ホメオスタシス（生体恒常性）について説明する。 3. 細胞の基本構造と細胞内小器官の機能について説明する。 4. 細胞の基本的な機能（受動輸送、能動輸送ならびに興奮および電気現象）について説明する。
	2	体液・体液の循環（その1）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の組成について概説する。 2. 血液の組成について説明する。 3. 血球の種類と機能について説明する。 4. 血液凝固の機序について説明する。 5. 血液型（ABO式、Rh式）の分類方法について説明する。 6. 脳脊液および脳脊髄液の機能について説明する。 7. 血液循環について説明する。 8. 筋の特性について説明する。 9. 心拍数、心拍出量、脈波、心音について説明する。 10. 臓器の電気現象（心室筋細胞の活動電位、心電図の基本波形）について説明する。

授業計画	3	体液の循環（その2） ・呼吸・消化および吸収	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血圧について説明する。 2. 血液循環の調節機構について説明する。 3. 心臓の機能および循環について概説する。 4. 呼吸と内呼吸について概説する。 5. 肺気量の内訳について説明する。 6. 胸式呼吸と腹式呼吸について説明する。 7. ガス交換の仕組みについて説明する。 8. 血液の酸素解離曲線について説明する。 9. 呼吸運動の調節機構について説明する。 10. 消化の意義について概説する。 11. 消化管各部での消化運動および消化酵素とその働きについて説明する。 12. 消化運動と消化液の分泌機構について説明する。 13. 栄養素の吸収過程について説明する。
	4	尿の生成および排出 ・代謝・体温	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネフロン構造と機能について説明する。 2. 尿の一般性状について説明する。 3. 尿の生成機序について説明する。 4. 体液平衡の機能調節について概説する。 5. 利尿機構について概説する。 6. 養素のエネルギー量について概説する。 7. 体温の変動とその原因について説明する。 8. 熱の産生機構と放散の機序について説明する。 9. 汗腺の種類と発汗の機序について説明する。
	5	内分泌・生殖	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌器官の構造と機能について説明する。 2. 各種ホルモンの調節作用について説明する。 3. 各種ホルモンの作用および機能異常について説明する。 4. 女性の性周期変化と性ホルモンの関係について説明する。 5. 妊娠・分娩と性ホルモンの関係について説明する。
	6	筋（その1）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋の種類について概説する。 2. 骨格筋収縮の種類とその過程について説明する。 3. 骨格筋の収縮の機序について説明する。 4. 電位について概説する。 5. 筋筋単位について説明する。
	7	筋（その2）・神経（その1）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋の種類とその特性について説明する。 2. 神経線維の基本構造と分類について説明する。 3. 興奮伝導の原則について説明する。 4. ナプスにおける興奮伝達について説明する。 5. 神経伝達物質について説明する。 6. 神経系の分類について概説する。 7. 自律神経機構について説明する。 8. 脳髄反射について説明する。
	8	神経（その2）・感覚	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳幹（中脳、橋、延髄）の機能について説明する。 2. 脳床下部の機能について説明する。 3. 脳の構造と機能について概説する。 4. 脳皮質の構造と機能について概説する。 5. 感覚の分類および内容について説明する。 6. 感覚の一般的特性について説明する。 7. 特殊感覚（味覚以外）について説明する。

科目名			分野	教育内容	
口腔解剖学・組織学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	3	45	講義	○
授業の目的	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	口腔と関連する頭頸部各部位の名称と機能を説明できる。				
教科書	最新 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	口腔解剖学・組織学・生理学	口腔を学ぶにあたっての概要と取り組み方
	2	口腔を作る骨	顔面ならびに口腔を構成
	3	口腔領域に存在する筋肉	頭頸部の筋の構成と機能
	4	口腔領域に存在する脈管	頭頸部の脈管の概説
	5	口腔領域を支配する神経	頭頸部の神経の概説
	6	口腔領域の内臓	口腔領域の内臓の概説
	7・8	歯の形態	永久歯の種類と特徴
	9・10	歯の形態	歯の形を理解する実習(スケッチ)
	11	歯の形態	乳歯の種類と特徴
	12	歯の形態ならびに構造	歯列と咬合について説明する
	13	エナメル質の構造と機能 象牙質・歯髄の構造と機能	エナメル質の基本構造 象牙質・歯髄複合体の基本構造
	14	セメント質・歯槽骨・歯根膜の構造と機能	セメント質と歯槽骨の組織学的構造と機能 歯根膜の組織学的構造と機能
	15・16	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の初期発生 歯と歯周組織の後期発生
	17	歯・口腔・顔面の感覚	口腔顔面領域の神経生理学 歯と歯周組織の後期発生
	18	歯・口腔・顔面の感覚	味覚と臭覚 咬合と租借・吸テツ
	19	発生・発語	発生機構の概要
	20	唾液	唾液の分泌構造
	21・22	総復習	口腔解剖学総復習
	23	テスト対策	テスト対策

科目名			分野	教育内容	
口腔生理学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	○
授業の目的	<p>生理学で学んだヒトの生体機能に関する知識を基に、口腔および頭頸部に特化した機能システムを学ぶ。顎運動、口腔感覚、唾液分泌などは摂食・嚥下機能に直接関与する機能でありながら、全身では見られない特殊性も有する。またヒトが言語を発する機能も口腔生理学の重要なテーマの一つである。これらの諸機能が整合性を持って総合的に働く仕組みを知る。ヒトの口腔を対象とする医療は、全身を対象とする医学的知識に加えて口腔特有の知識や理解を要求される。その特殊性を理解した上で根拠に基づく歯科医療を提供するため、口腔生理学の講義では口腔機能を総合的かつ科学的に説明し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。</p>				
到達目標	<p>1.味覚を含む口腔諸器官の感覚について説明できる。 2.唾液および唾液腺の機能について説明できる。</p>				
教科書	「歯科衛生士テキスト 生理学」 覚道幸男・吉田 洋他著 学建書院				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯および歯の歯周組織の生理	<p>1.歯の硬組織の構造と物理化学的な性状について説明する。 2.歯髓の構造と機能について説明する。 3.歯周組織の構造について説明する。</p>
	2	咬合および顎運動	<p>1.歯種下顎位について説明する。 2.咬合面における切歯点の運動について説明する。 3.咬合平面における切歯点の運動について概説する。</p>
	3	咀嚼	<p>1.咀嚼の意義と目的について概説する。 2.咀嚼周期について説明する。 3.咀嚼能率について説明する。 4.咀嚼筋の構造と機能について説明する。 5.顎反射について説明する。 6.咬合力と咀嚼力について説明する。 7.唇、舌の働きについて概説する。</p>
	4	嚥下・嘔吐	<p>1.咽頭・喉頭の構造について説明する。 2.嚥下反射について説明する。 3.歯顎者における嚥下阻について概説する。 4.異常嚥下について概説する。 5.嘔吐反射について説明する。</p>
	5	唾液腺および唾液（その1）	<p>1.唾液腺の構造について説明する。 2.唾液の生成機構について説明する。 3.唾液分泌の神経機構について説明する。</p>

6	唾液腺および唾液（その2）	1. 唾液の性状と組成について説明する。 2. 唾液の働きについて説明する。 3. 唾液と歯科臨床の関連性について説明する。
7	口腔感覚	1. 口腔粘膜の感覚点と感覚受容について説明する。 2. 根膜の感覚について説明する。 3. 咬合・歯の部位感覚の意義について説明する。 4. 口腔の深部感覚について概説する。 5. 口腔の痛覚の意義と特徴について説明する。
8	味覚・発声および発音	1. 味覚受容器の構造と機能について説明する。 2. 本味の特性について説明する。 3. 味覚閾値について説明する。 4. 盲について説明する。 5. 味覚の神経機構について説明する。 6. 発声器官の構造について説明する。 7. 発声の機構について概説する。 8. 発声の性状について説明する。

科目名			分野	教育内容	
病理学・口腔病理学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	2	30	講義	○
授業の目的	疾患の治療や予防のためには、疾患原因、発生機序および病態変化の理解が必要である。これらの病理学的特徴を理解するために全身に起こる疾病の概念、病院と病態に関する基本的病理学的知識を習得する。病理学で学んだ基本的病理学的変化をもとにして深い知識を習得する。				
到達目標	病気の本態、病気の原因や成り立ちを理解し病気の診断、治療ならびに予防に関する知識を習得する。				
教科書	新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学 クインテッセンス出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	病理学概論,病因論	病理学とは 病因論
	2	遺伝性疾患と奇形	遺伝子の働き 染色体 先天異常 遺伝病 染色体異常 奇形の発生と病因、分類
	3	循環障害	循環障害について説明する 循環障害の種類
	4	代謝障害と退行性病変	細胞障害 変性と物質代謝障害
	5	増殖と修復	刺激や障害に対する能動的な反応の種類と意義 異物に対する生体の処理法 肉芽細胞の構成と機能
	6	炎症	炎症の原因と機序 炎症の分類と各炎症の特徴
	7	免疫と免疫異常	免疫反応について 液性免疫と細胞性免疫の特徴
	8	腫瘍	腫瘍の定義 腫瘍の原因と発生機序 がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明する 腫瘍の組織学的特徴 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明する
	9	歯の発育異常	歯の発育異常の種類 歯数、歯の形の異常について説明する 形成不全、歯の位置の異常

計画授業	10	歯の機械的損傷、科学的損傷、沈着物と着色	歯の損傷の種類 咬耗症摩耗性の違い 歯の変色や着色の原因
	11	う蝕	う蝕の疫学について説明する う蝕発生に関わる要因 う蝕の分類 う蝕の疫学変化について説明する
	12	歯周組織の病態	根尖部歯周組織の病変 歯肉炎、歯周炎の病因と分類 歯肉増殖症について 咬合性外傷について
	13	口腔粘膜の病変	口腔粘膜に生じる真菌感染症とウイルス感染の種類と特徴 口腔粘膜に生じる白色病変と原因について説明する 全身性疾患の徴候として見られる口腔粘膜の病変
	14	口腔領域の嚢胞、歯原性腫瘍	嚢胞の定義と基本的な構造 歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍の代表的な疾患 口腔領域の悪性腫瘍について説明する
	15	口腔癌	口腔粘膜の潜在的悪性疾患について説明する 白板症、上皮内癌について説明する 扁平上皮癌について説明する

科目名			分野	教育内容	
微生物学・口腔微生物学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
授業の目的	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	人の免疫応答の流れを概説できる。口腔内の感染症の原因となる微生物の特徴を説明できる。化学療法と消毒法、滅菌法の原理と効果を説明できる。				
教科書	最新 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	感染の成り立ちと発病	微生物の種類
	2	細菌の一般性状と病原性	感染症の種類 免疫の概要
	3	ウイルス	ウイルスの性状 ウイルス感染症
	4	その他の微生物	真菌、原虫について説明する
	5	宿主防御機構と免疫	非特異的防御機構と特異的防御機構 免疫の種類
	6	アレルギー	アレルギー反応の分類と特徴 アレルギー反応の機序
	7	化学療法と化学療法薬	化学療法薬の種類と特徴
	8	院内感染対策と滅菌・消毒	滅菌・消毒の方法 院内感染の原因と予防法
	9	口腔細菌叢	口腔常在微生物について説明する 口腔内細菌叢の成り立ち
	10	プラーク、バイオフィルム	プラークの形成機序 バイオフィルム感染
	11	口腔感染症	う蝕の病像 う蝕病原細菌
	12	歯内感染症	歯髄炎に関連する細菌 感染根管と根尖性歯周炎に関連する細菌
	13	歯周病	歯周病の病状 歯肉炎と病原因子
	14	その他の口腔感染症	唾液腺の感染症 口腔カンジダ症 誤嚥性肺炎
	15	細菌培養・顕微鏡観察法	培養法 顕微鏡観察 微生物を観察するための方法

科目名			分野	教育内容	
口腔衛生学			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
授業の目的	歯及び口腔の組織と全身との関連を知り、その健康と機能増進をはかり、人の健康状態と生活の質を向上させることを学ぶ。				
到達目標	口腔疾患における病因論を理解し、その予防手段の立案に関与して個人および集団における歯科保健の実践を学ぶ。				
教科書	歯科衛生士教本 保健生態学 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	総論	歯・口腔の健康と予防 歯・口腔の構造・機能、歯・口腔の付着物
	2	口腔清掃	口腔清掃の意義・口腔清掃法 歯磨剤・洗口剤
	3	歯科疾患の疫学	う蝕・歯周病の疫学 その他の口腔疾患の疫学
	4	う蝕の予防	う蝕の発生のメカニズム う蝕活動性・う蝕の予防方法
	5	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の性状・代謝・毒性 フッ化物によるう蝕予防法
	6	歯周病の予防	歯周疾患の症状・発生機序 歯周疾患と全身疾患の関連・歯周疾患の予防方法
	7	その他の疾患	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・口臭・ 口腔乾燥症
	8	地域歯科保健	歯科口腔保健法・健康日本21と健康増進法
	9	母子歯科保健	妊産婦歯科保健・1歳6か月児健診・3歳児健診
	10	学校歯科保健	学校歯科保健教育・学校歯科健康診断
	11	成人歯科保健	歯科保健事業
	12	産業歯科保健	歯科健康診断・職域歯科保健
	13	高齢者歯科保健	定期健康診断・口腔機能回復
	14	災害時歯科保健	災害時急性期歯科医療救護・口腔支援
	15	ライフステージの口腔保健	ライフステージごとの口腔保健管理

科目名			分野	教育内容	
歯科臨床概論			専門	歯科衛生士概論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	30	講義	○
授業の目的	患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査及び全身の一般検査の意義と関連を理解する。				
到達目標	歯科診療の流れを理解し、その中で歯科衛生士が主体的に受け持つ役割を理解する。また、各論の授業を有機的に総合して理解できるようになる。				
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	数回	項目	授業内容
授業計画	1	歯科診療のながれの概要	歯科衛生士の役割について
	2	歯科医療の認識と対応	歯科医療の特徴
	3	歯科疾患の概要	う蝕の病因論 う蝕の進行と症状の変化
	4	ライフステージと歯科臨床	歯科的特徴と問題点 対応する領域 歯科衛生士業務 法律に基づく歯科に関連する業務
	5	う蝕の治療	う蝕の各進行段階における治療法 う蝕の予防法と実際
	6	歯周疾患	歯周治療の対象疾患及び診療内容を把握
	7	歯科補綴治療	対象疾患及び診療内容 補綴装置を装着した後の歯科衛生士の
	8	歯科保存	歯科保存学 象牙質知覚過敏症 歯冠部う蝕 根面う蝕
	9	床義歯	部分床義歯と全部床義歯について
	10	歯内療法	歯髄保存療法 歯髄除去療法 感染根管治療
	11	小児歯科	矯正治療の対象疾患及び診療内容の把握
	12	口腔外科治療	対象疾患及び診療内容の把握
	13	歯科医療の変遷	歯科医療の歴史
	14	障がい者歯科・高齢者歯科	障がい者について 障がい者歯科について 障がい者歯科と歯科衛生士 高齢者歯科の特徴
	15	歯科診療のながれの概要	今までに習得した内容を整理する

科目名			分野	教育内容	
歯周病学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	○
授業の目的	歯周組織の常態・病態を理解し、歯周病の症状・治療法について習得する。				
到達目標	歯周組織の構造について説明できる。歯周疾患の原因と分類について説明できる。歯周治療の流れを説明できる。歯周基本治療を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。				
教科書	歯科衛生士教本 歯周治療 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯周病の基礎知識	歯周病の有病状況、 歯周治療の意義、目的
	2	正常な歯周組織	歯周組織の構成要素、防御機構、再生能力、
	3	構造と機能	加齢変化
	4	歯周疾患の分類	歯肉炎と歯周炎の違い 歯肉病変、歯周病の分類
	5	歯周疾患の病因	細菌因子 宿主、環境因子
	6	歯周疾患の原因	歯周病の原因 歯周医学インプラント歯周炎について説明する
	7	歯周治療の進め方	歯周病の原因、歯周治療基本的考え方 進め方、内容について説明する
	8	歯周組織検査	一般検査による判定法 歯周組織の診査法
	9	歯周外科治療	歯周外科手術の目的と種類
	10・11	歯周病、高齢者	歯周病と全身との関連 高齢者の歯周病
	12	歯周基本治療	内容、目的、意義 プラークコントロール、SRPの目的と意義
	13	歯周基本治療再評価	暫間固定、咬合調整、習癖の修正目的と意義 歯周治療後の再評価
	14	歯周病と疫学と予防口臭	歯周病の疫学に用いる指数 口臭について
	15	メンテナンスについて	歯周治療後の再評価 メンテナンス、SPTの目的、意義、方法

科目名			分野	教育内容	
小児歯科学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	1	30	講義	○
授業の目的	身体的・精神的・社会的発達途上にある小児の特徴を理解し、チーム診療の役割について知識と技術を学ぶ。				
到達目標	小児の身体や小児期の口腔疾患と治療の概要について基本知識の習得 および小児歯科医療の中で担役割について理解し説明できる。				
教科書	歯科衛生士教本 小児歯科 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	小児歯科学概論	小児歯科学について 小児歯科診療と歯科衛生士の役割
	2	心身の発育	発育の概念と分類 発育の評価
	3・4	小児の生理的特徴	生理的年齢 器官の発育 精神的発達 小児の生理的特徴
	5	顔面頭蓋の発育	顎顔面頭蓋の発育 乳歯の特徴 乳歯のう蝕
	6	歯の発育とその異常	幼若永久歯のう蝕・歯の形成 歯の発育時期と形成障害
	7	歯列・咬合の発育と異常	歯列および咬合の発育 歯列・咬合の発育異常
	8	小児の歯科疾患	小児にみられる歯科疾患 先天異常
	9	子供への対応法	小児歯科と成人歯科との対応法の違いについて
	10	小児の外傷の処置	小児の歯の外傷の種類と処置法
	11	咬合誘導	概念ならびに保険装置の種類 適応症
	12	定期診査	意義や検査項目
	13	口腔機能の発達と育成	口腔機能の発達の評価項目や訓練
	14	障がいのある子どもの発達支援	障がい児の特徴と問題点
	15	心身障がい児の歯科診療補助	小児疾患と歯科診療

科目名			分野	教育内容	
医療安全			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	○
授業の目的	安全な医療を提供できる知識と能力をを習得する目的。				
到達目標	患者中心の質の高い、安全な医療を提供するために医療安全の必要性、重要性を認識し、必要な知識、技術を習得する。				
教科書	歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	医療安全の概念	医療安全の概念とその対策
	2	医療法について	医療法と歯科衛生士について説明する
	3	免疫、感染症について	免疫の仕組み 受動免疫と能動免疫について説明する
	4	免疫、感染症について	肝炎ウイルス HIV 結核などの感染症
	5	ヒューマンエラーについて	威容事故防止の考え方
	6	医療施設での安全管理	安全管理の組織体制
	7	インシデント	歯科衛生士の業務で起こりやすいインシデント事例
	8	感染予防対策の基本と実際	スタンダードプレコーションについて説明する
	9	治療用器具の滅菌・消毒・洗浄	滅菌・消毒・洗浄の定義
	10	治療用器具の滅菌・消毒・洗浄	滅菌・消毒・洗浄の方法 消毒薬、各種滅菌機器、器具の準備、操作取り扱い
	11	診療前後の感染予防等の流れ	診療前後の清潔操作と感染予防の流れについて説明する
	12	廃棄物の処理	医療廃棄物の分類と分別
	13	医療従事者の感染予防対策	感染事故の予防法や事故時の対策
	14	ガウンテクニックと手洗い実習	手指消毒やガウン、グローブの装着・着脱実習
	15	まとめ	感染予防についての理解度を評価

科目名			分野	教育内容	
早期臨床実習			専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	45	臨床実習	○
授業の目的	歯科医院とはどのようなものか、将来自分がどのように医療に携わっていくのか、そのために何を学ばよいか見学実習を通して理解する。将来目指す歯科衛生士職の動機付けを目的とする。				
到達目標	実体験を通して専門的能力を習得する。医療従事者としての基本姿勢や倫理規範を学ぶ。				
教科書	各科目の教科書 臨床実習ノート				
評価方法	学修成果評価				

	授業内容
授業計画	<p>早期臨床実習の概要説明 歯科診療所における早期臨床実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明と目標 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人1組にて見学実習を行う。 <p>実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。</p> <p>見学実習後は各自がレポートにまとめるため、学んだことや、気づいたことをメモに残し整理しておく。</p> <p>【全体の行動目標】</p> <p>歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務 ・体調管理